徘徊について
施設のあり方

鍵をかけていない施設では、
認知症患者が出かけようとすると、職員がついてきてくれる。
「ついてくる人がいる」という安心感。
他人を怖がらなくなった。
乱暴だった患者さんも大人しくなる。
誰かが声をかけるのを待っている。
何かを変えるきっかけになる。
安全を考えると閉じ込めようとする。→本人は納得できない。
閉じ込められていることを知ると発狂寸前になる、冷静になれない。
対応によっては変化する。 おもちゃのペットなど。 目が合うようになる。
人間同士ならもっとできる。 思い通りにならないから良い。
見たことがないから行ってみたい。その感動をわかってほしい。

患者を閉じ込めようとする施設
患者を温かく見守る施設

① 「ついてくる人がいる」という安心感を与えることが大切。

② 徘徊中も、誰かが声をかけてくれるのを待っている。

③ 施設側は安全を考えて閉じ込めようとするが、本人は納得できない。

③ 見たことがないところに行ってみたい。その感動をわかってほしい。

「施設のあり方」のポイント